

子どもの居場所づくりにむけた公民館の取り組み 「夏休み自然体験教室」をとおして

子どもたちを取り巻く状況
現代の子どもにとつて、
集団で遊ぶことがとても難
しくなっています。

市内には多くの公園があ
りますが、大人数で遊べる
広場（多目的広場）は少な
く、河原などは危険な場所
として遊ぶことが禁止され
ています。

子どもたちの遊び方や遊
び道具も変化しており、飽
きたら次のおもちゃに買い
替える、というように遊び
道具が消費物化しています。
子どもたち自身で遊び道具
を工夫してつくるといふこ
とがなくなっています。ま
た携帯できるゲーム機の普



及により、一人で遊ぶ（時
間を過ごす）事ができるた
め大人数の友達と遊ぶこと
も少なくなっています。

そして子どもたち自身の
生活スタイルも多様化して
います。子どもたちは塾や
習い事で忙しい毎日を送
っています。そのため友達
と遊ぶにも、約束をした相
手と、約束した時間で遊ぶ
というように細切れの遊び
時間を過ごしている、とい
うのが多くの子どもたちの
現状ではないでしょうか。

地域を越えた異年齢の仲間
をつくる

公民館では、毎年夏休み
の時期、小学3年生から6
年生を対象に「夏休み自然
体験教室」を開催していま
す。ここでは一泊2日のキ
ャンプに向けて週に1回程
度集まり、地域探検や調理
実習を行いながら、地域や
年齢を問わない仲間をつ
くる事業を行っています。

今年は、熊川分水を探検し
身近な遊び場を発見したり、
野外調理実習を行ってキャ
ンプでの飯ごう炊さんにむ
けて料理の技術を磨きまし
た。メインイベントのキャ
ンプは鳩ノ巣にあるパット
レスキャンプ場で行ないま
した。一泊2日のキャンプ
でしたが、仲間と一緒に溪

流遊びやアスレチック、夜
には肝だめし、星空観察、
そしてUNO大会を行いま
した。これらキャンプでの
活動内容は子どもたち自身
が話し合いを通して決めた
ことでした。

自ら考え行動する

学校も年齢も異なるなか
自然体験教室の活動をと
おして子どもたちは仲間づ
くりをしてきました。

一ヶ月と短い期間でし
たが、自ら考えて行動する
という活動を通して、自分
たちで居場所を作り上げて
きました。ここで学んだ多
くの経験は、子どもたちに
とつて、これから生きる
上で大きな自信となつた
のではないのでしょうか。

